天吊形据付説明書

FDEV：インバータ
FDE　：一定速

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気工事の方法は、裏面をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
リモコンは別売です。

PFA012D100

安全上の注意

●据え付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、 ⚠警告 、 ⚠注意 に区分していますが、誤った据え付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に ⚠警告 の欄にまとめて記載しています。しかし、 ⚠注意 の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●据え付け工事完了後、試験運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管頂くように依頼してください。

⚠ 警　告

●据え付けは、お買上げの販売店又は専門業者に依頼してください。ご自分で据え付け工事をされ不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。
●据え付け工事はこの据え付け説明書に従って確実に行ってください。据え付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度を超える恐れのある場合は、対策が必要です。限界濃度を超えない対策については販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故につながる恐れがあります。
●据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。強度が不足している場合は、ユニットの落下により、ケガの原因になります。
●台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行ってください。据え付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
●配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
●配線は、浮き上がらないように整形し、リッド・サービスパネルを確実に取り付けてください。取り付けが不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を混入させないでください。空気等が混入すると、冷凍サイクル内が異常に高圧になり破裂、ケガの原因になります。
●設置工事部品は、必ず付属部品および指定の部品を御使用ください。当社指定品を使用しない場合は、水漏れや感電、火災、冷媒漏れの原因になります。
●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をしてください。
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●設備工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

⚠ 注　意

●アースを行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電の原因になることがあります。
●設置場所によっては漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わないでください。
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
●ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると、水漏れし、家財等を濡らす原因になることがあります。

〈ご注意〉
○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
●油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
●病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
●潮風が当る所。（海浜地区）外板、熱交換器の腐食の原因となります。

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
●直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
●アースを取ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は誤作動や感電の原因になることがあります。
●漏電ブレーカの取り付けが必要です。漏電ブレーカが取り付けられていないと感電や火災の原因となることがあります。
●エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を越える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取付けが必要となりますので、お買上げの販売店にご相談ください。

〈お願い事項〉
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

① ドレン関係

1	ドレンホース		1個	ドレンホースクランプ付
2	断熱材		1個	

② フレアナット部断熱用

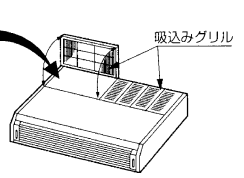
1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

③ 本体据付関係

1	型　紙		1個	

付属品収納場所（梱包時）

左記に示す付属品①～②はこの中に収納されています。



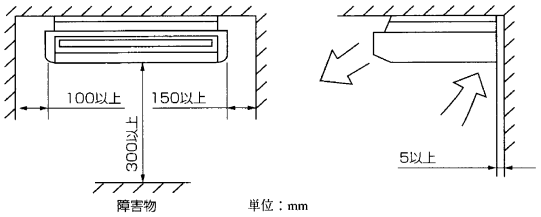
工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

据付場所の選定

（室内機）

据付スペース



単位：mm

1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ●冷風または温風が十分行きわたる所。
  据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
- ●室外への配管、配線のしやすい所。
- ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- ●直射日光のあたらない所。
- ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。
  （高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。）

2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

ユニットの搬入、据付

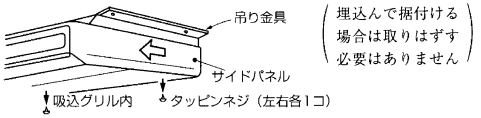
搬　入

○搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。

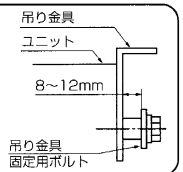
○やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。
（注）サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。

○解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット床面側を上にして置いてください

サイドパネル・吊り金具の取りはずし

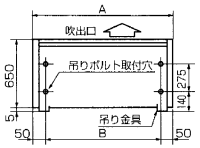


（埋込んで据付ける場合は取りはずす必要はありません）

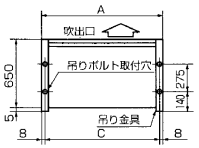


吊りボルトの位置

●吊り金具が内向きの場合
（天井露出）



●吊り金具が外向きの場合
（天井埋込）



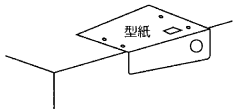
単位：mm

インバータ		50～80	112～116
一定速	40～56	63～112	140～160
A	1000	1260	1470
B	900	1160	1370
C	984	1244	1454

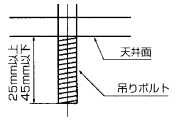
○付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトの設置と配管用の穴あけを行なってください。

位置決定は、実測により行なってください。

位置決定後、型紙は取り外してください。



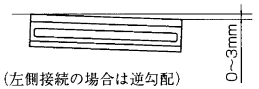
○吊りボルトの長さは下記寸法を厳守ください。



吊り金具内向き取付の場合吊りボルトは、室内ユニット天板についているプラスチックキャップの中に納まります。
プラスチックキャップは外さないでください。

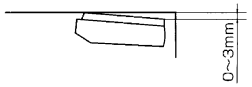
ドレン水の流れをよくするためユニットを排水側に下り勾配を設け据付けてください。

●左右方向（図は右側にドレンホースを接続する場合）



（左側接続の場合は逆勾配）

●前後方向

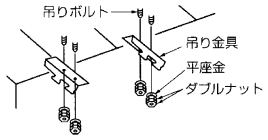


逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

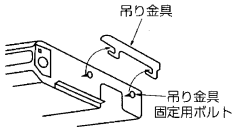
据　付

●吊り金具内向きの場合（天井露出の場合）

1）吊り金具を吊りボルトに固定します。

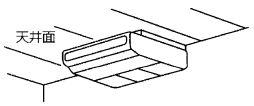


2）ユニットを持ち上げ吊り金具に引っ掛ける。



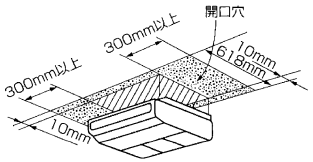
3）吊り金具固定用ボルトをしっかり締めユニットを固定してください。

4 ）サイドパネルを取り付けて終了です。



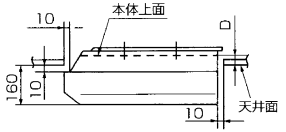
●吊り金具外向きの場合（天井埋込みの場合）

1）天井に開口穴をあけます。

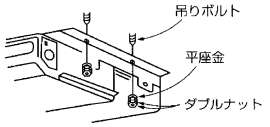


インバータ	50～63	71～160
一定速	40～80	112～160
D	24mm	80mm

（埋込み寸法）

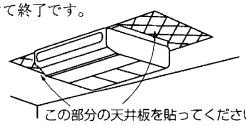


2）ユニットを吊りボルトに合せて持ち上げます。



3）ナットをしっかり締めユニットを固定してください。

4）サイドパネルを取付け開口穴とユニットのすき間に天井板を貼り付けて終了です。



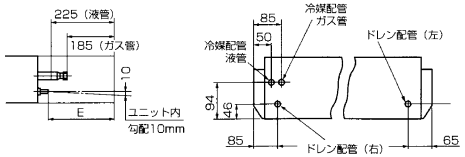
冷媒配管

は室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

配管位置

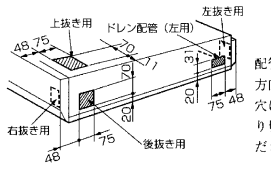
単位：mm

インバータ	50～63	71～160
一定速	40～80	112～160
E	248	266



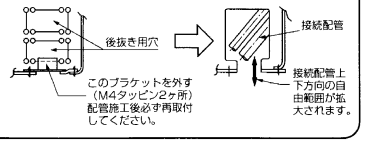
配管取り出し位置

単位：mm



配管取り出しは4方向より行えます。穴はニッパ等により切り落としてください。

後抜きの配管接続の時に下図に示す様に作業を行いますと配管施工がやりやすくなります。本作業時は、ユニットより、配管側の吸込グリルを外してください。（M4タッピング2ヶ所）



冷媒配管時の注意事項

フレアナット締付トルク

φ 6.35：　14～ 18(N・m)，(1.4～1.8kg・m)
φ 9.52：　34～ 42(N・m)，(3.4～4.2kg・m)
φ12.7 ：　49～ 61(N・m)，(4.9～6.1kg・m)
φ15.88：　68～ 82(N・m)，(6.8～8.2kg・m)
φ19.05：100～120(N・m)，(10～12kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

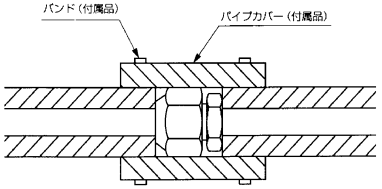
※液側配管は断熱しないと結露し水もれします。

●ユニットの配管端部のフレアナットは必ず2丁スパナで取り外し配管接続は2丁スパナでしっかりと締め付けてください。

●フレアナット接続時は、フレア背面部に冷凍機油を塗り、最初は3回～4回手回しでネジ込んでください。

●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS　H3300）

●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。



ドレン配管

○ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

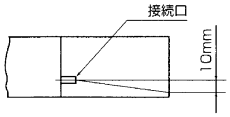
○ドレン配管を行なう場合は、必ず付属のドレンホース、ドレンホースクランプの断熱材をご使用ください。

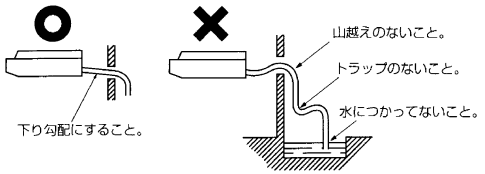
●ドレンホースは、根本までしっかりと差し込んでください。
●ドレンホースクランプは、しっかりと締め付けてください。
●ドレンホースクランプを断熱してください。

○ドレン配管を左側にて行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（筒状）を右側接続口に付け換えてください。

〈注意〉

○ドレンホースは、下図のようにユニット内でたるませないよう注意して、10mmのドレン勾配をとってください。





○配管施工後、排水が良好におこなわれていることと、水漏れのないことをご確認ください。

電気配線工事

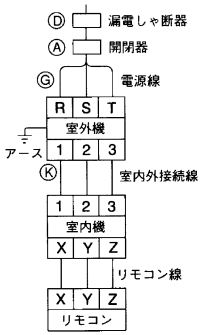
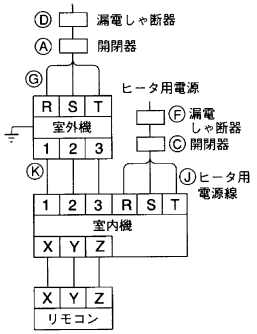
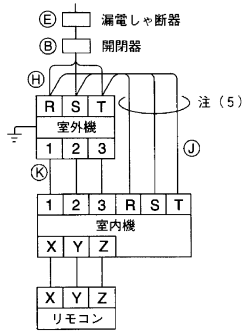
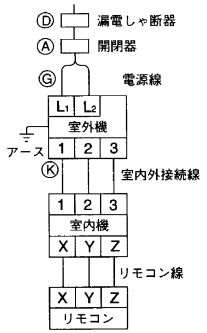
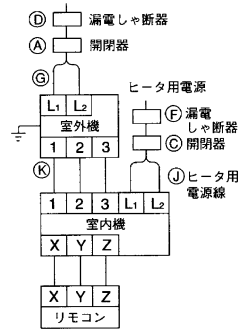
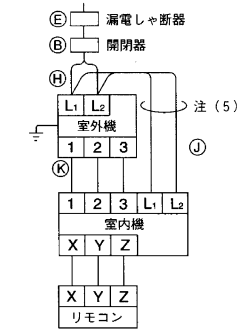
電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規定に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い
室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

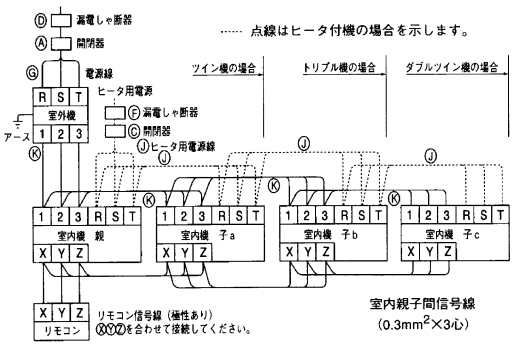
シングル機の結線

①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りはできません。(ヒータ用電源は除く。)
※例外的な接続方法の場合は所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
②室内外接続線及びリモコン線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。

	ヒータレス（含む冷専）	ヒータ付（含むヒータ後付時） 標準的な接続方法	ヒータ付（含むヒータ後付時） ※ 例外的な接続方法
3相機			
単相機			

ツイン・トリプル・Wツイン機の結線

Vマルチ（システム）も同一



①室内親・子機間は端子台①②③及び Ⓧ Ⓨ Ⓩ の同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチSW1により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチSW2－1,SW2－2により、子a～子cに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

		工場出荷時「親」設定	室内機 親	子a	子b	子c
室内基板アドレススイッチ	SW2-1		OFF	OFF	ON	ON
	SW2-2		OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

〈シングル・ツイン・トリプル・Wツイン：ヒータレス〉

	室外機		漏電しゃ断器 Ⓓ	開閉器(A) Ⓐ	配線太さφmm又はmm²(配線こう長m) 注(1) Ⓖ	Ⓚ 注(2)	アース線 太さφmm又はmm²	ねじ
ヒータレス（含む冷専）	単相	40	20A 30mA, 0.1秒以下	30	φ2.0 (27)	φ1.6	φ1.6	M5
		45		30	φ2.0 (23)	φ1.6	φ1.6	M5
		50		30	φ2.0 (21)	φ1.6	φ1.6	M5
		56	30A 30mA, 0.1秒以下	30	5.5 (29)	φ1.6	φ1.6	M5
	三相	40	15A 30mA, 0.1秒以下	30	φ1.6 (27)	φ1.6	φ1.6	M5
		45		30	φ1.6 (22)	φ1.6	φ1.6	M5
		50		30	φ1.6 (20)	φ1.6	φ1.6	M5
		56	20A 30mA, 0.1秒以下	30	φ1.6 (17)	φ1.6	φ1.6	M5
		63		30	φ2.0 (25)	φ1.6	φ1.6	M5
		80	30A 30mA, 0.1秒以下	30	5.5 (31)	φ1.6	φ1.6	M5
		112		30	5.5 (25)	φ1.6	φ1.6	M5
		140	40A 30mA, 0.1秒以下	50	5.5 (21)	φ1.6	φ2.0	M5
		160		50	5.5 (20)	φ1.6	φ2.0	M5
		224	50A 100mA, 0.1秒以下	50	8 (24)	φ1.6 (49)	φ2.0	M5
		280	60A 100mA, 0.1秒以下	60	14 (31)	φ1.6 (43)	5.5	M6
		400	100A 100mA, 0.1秒以下	100	22 (33)	φ1.6 (36)	5.5	M6
インバータ・ヒータレス	単相	50	30A 30mA, 0.1秒以下	30	φ2.0 (14)	φ1.6	φ1.6	M5
		56		30	φ2.0 (14)	φ1.6	φ1.6	M5
	三相	50	30A 30mA, 0.1秒以下	30	φ2.0 (22)	φ1.6	φ1.6	M5
		56		30	φ2.0 (22)	φ1.6	φ1.6	M5
		63		30	φ2.0 (19)	φ1.6	φ1.6	M5
		80		30	5.5 (30)	φ1.6	φ1.6	M5
		112	40A 30mA, 0.1秒以下	50	5.5 (21)	φ1.6	φ1.6	M5
		140		50	5.5 (21)	φ1.6	φ2.0	M5
		160		50	5.5 (21)	φ1.6 (49)	φ2.0	M5
		224	60A 100mA, 0.1秒以下	60	8 (24)	φ1.6 (43)	5.5	M6
		280		60	14 (34)	φ1.6 (43)	5.5	M6

注（1）配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規定により配線太さを見直してください。Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
（2）**室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。**

〈シングル機：ヒータ付〉

	室外機		漏電しゃ断器 Ⓔ	漏電しゃ断器 Ⓕ	開閉器(A) Ⓑ	開閉器(A) Ⓒ	配線太さφmm又はmm²(配線こう長m) 注(1) Ⓖ	Ⓚ 注(2)	アース線 太さφmm又はmm²	ねじ
ヒータ付（ヒータ含む後付時）	単相	40	20A 30mA,0.1秒以下	15A 30mA,0.1秒以下	30	30	φ2.0 (20)	φ1.6 (34)	φ1.6	M5
		45			30	30	φ2.0 (18)	φ1.6 (34)	φ1.6	M5
		50	30A 30mA,0.1秒以下		30	30	5.5 (28)	φ1.6 (34)	φ1.6	M5
		56			30	30	5.5 (24)	φ1.6 (34)	φ1.6	M5
	三相	40	15A 30mA,0.1秒以下		30	30	φ1.6 (21)	φ1.6	φ1.6	M5
		45			30	30	φ1.6 (18)	φ1.6	φ1.6	M5
		50	20A 30mA,0.1秒以下		30	30	φ1.6 (16)	φ1.6	φ1.6	M5
		56			30	30	φ2.0 (23)	φ1.6	φ1.6	M5
		63			30	30	φ2.0 (21)	φ1.6	φ1.6	M5
		80	30A 30mA,0.1秒以下		30	30	5.5 (24)	φ1.6 (42)	φ1.6	M5
		112	40A 30mA,0.1秒以下		50	30	5.5 (20)	φ1.6 (42)	φ1.6	M5
		140	50A 100mA,0.1秒以下		50	30	8 (28)	φ1.6 (29)	φ2.0	M5
		160			50	30	8 (25)	φ1.6 (29)	φ2.0	M5

	室外機		漏電しゃ断器 Ⓔ	漏電しゃ断器 Ⓕ	開閉器(A) Ⓑ	開閉器(A) Ⓒ	配線太さφmm又はmm²(配線こう長m) 注(1) Ⓖ	Ⓚ 注(2)	アース線 太さφmm又はmm²	ねじ
インバータ・ヒータ後付時	三相	50	30A 30mA,0.1秒以下	15A 30mA,0.1秒以下	30	30	φ2.0 (17)	φ1.6 (42)	φ1.6	M5
		56			30	30	φ2.0 (17)	φ1.6 (42)	φ1.6	M5
		63			30	30	5.5 (26)	φ1.6 (42)	φ1.6	M5
		80			30	30	5.5 (24)	φ1.6 (42)	φ1.6	M5
		112	50A 100mA,0.1秒以下		50	30	8 (25)	φ1.6 (29)	φ1.6	M5
		140			50	30	8 (26)	φ1.6 (29)	φ2.0	M5
		160			50	30	8 (24)	φ1.6 (29)	φ2.0	M5

注（3）ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
（4）配線こう長は、電圧降下２％とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規定により配線太さを見直してください。
Ⓙの記載なき欄の配線こう長は50mです。
（5）**室内外接続線Ⓚとヒータ用電源線Ⓙは必ず別ケーブルとしてください。**

〈ツイン・トリプル・Wツイン：ヒータ付〉

注（6）ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
（7）配線太さⒿは20mまでの電圧降下（2%）を見込んであります。現地の配線が20mを越える場合は、内線規定により配線太さを見直してください。

	室内機ヒータ合計容量（3相）	漏電しゃ断器 Ⓕ	開閉器（A） Ⓒ	配線太さφmm又はmm² 注(7) Ⓙ
ヒータ付	4.3kw以下	15A 30mA, 0.1秒以下	30	φ1.6
	5.0kw以下		30	φ2.0
	6.9kw以下	20A 30mA, 0.1秒以下	30	φ2.0
	10.0kw以下	30A 30mA, 0.1秒以下	30	5.5

室外形式	アース線 太さφmm又はmm²	ねじ
80	φ1.6	M5
112・140	φ2.0	M5
160～280	5.5	M6
400	14	M6

Ⓑ リモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

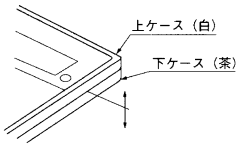
お願い 次の位置は避けてください。

1）直射日光の当る場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

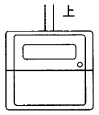
取付要領

露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●側面上方の上ケース（白）と下ケース（茶）に爪を掛け溝を広げはずします。



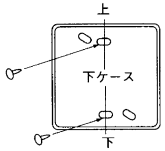
②リモコンコードの取出し方向は、下図のように上方向のみ可能です。



（コード取出し方向）

●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

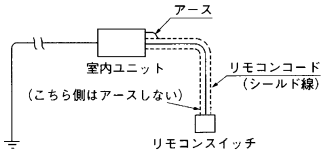
③リモコン下ケースを付属の木ネジ2本で壁に取付けます。



④リモコンコードを端子台に接続してください。室内ユニットとリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子台には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
⑤室内機の機種に応じて機能の設定をしてください。
機能の設定 の項をご覧ください。
⑥上ケースを元通り、下ケースにはめ込みます。
⑦リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。

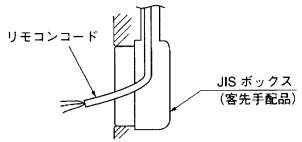
リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C（京阪電線）〕
注（1）延長距離が100mを越える場合は下記のサイズに変更してください。
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



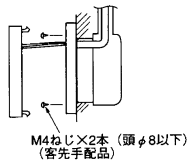
埋込取付

①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。

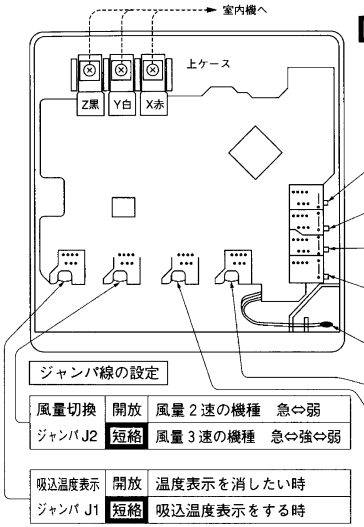


〔使用可能JISボックス〕
● JIS C 8336 1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下：客先手配品）でJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
注） 露出取付け の項をご覧ください。
⑤室内機の機種に応じて機能スイッチの設定をしてください。
機能の設定 をご覧ください。
⑥上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。



Ⓒ 機能の設定



■ 囲み工場出荷時の設定

切換スイッチの設定（基板側面）

スイッチ	設定	機能の内容
機種切換	冷	冷房専用機に使用する時
SW1	ヒ	ヒートポンプ機対応
リモコンセンサ	有	リモコンセンサを使用する時
SW2	無	無効（室内機センサー有効）
停電補償	有	停電補償機能有効にする時
SW3	無	無効（停電時は初期設定）
リモコン	子	子リモコン（親子リモコン制御）
SW4	親	親リモコン

ジャンパ線の設定

風量切換	開放	風量２速の機種　急⇔弱
ジャンパ J2	短絡	風量３速の機種　急⇔強⇔弱
吸込温度表示	開放	温度表示を消したい時
ジャンパ J1	短絡	吸込温度表示をする時
スイング表示	開放	ルーバー位置表示をしない
ジャンパ J4	短絡	ルーバー位置表示をします
タイマ機能	開放	タイマーを無効にする時
ジャンパ J3	短絡	タイマー機能を選択できます

（オートスイング無しのリモコンは、J4はありません）

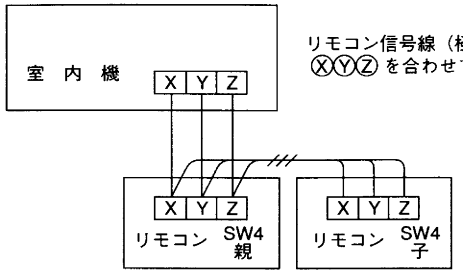
Ⓓ 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。

①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。

②子リモコンの切換スイッチSW4を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。

（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

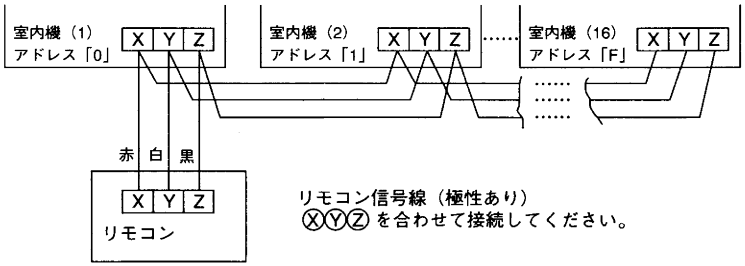


Ⓔ 1リモコンによる複数台室内ユニット制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。

②室内基板上のロータリースイッチSW1により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「O」～「F」に設定してください。



③電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。

Ⓕ 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

①「運転」ボタンを押して、運転する。

②「モード」スイッチにより冷房を選択する。

③「▽」スイッチと「セット」スイッチを同時に押す。
設定温度が5℃になり、室温表示部が、室内熱交温度情報に変わります。

表 示	室内熱交温度
n3	24℃以上
n2	16～24℃
n1	8～16℃
n0	8℃以下

●試運転時、正常に動作しない場合は、室内・外ユニットに貼付の結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。

送風装置タップ切換

〈お願い〉

●50Hz地区でご使用の場合は、室内モータのコネクタを50Hz側に差し替えてください。（コネクタは制御箱の横に有ります。）